

湘南新宿ラインのJR川口駅停車 に関する要望書

衆議院議員 新藤 義孝

川口市長 奥ノ木信夫

東日本旅客鉄道株式会社
代表取締役社長 富田 哲郎 様

「湘南新宿ラインのJR川口駅停車の実現に関する要望書」

JR川口駅周辺は、長年にわたる大規模な駅前再開発等を経て、高度な都市機能と商業集積を有するに至り、平成27年度の同駅の一日当たりの乗降客数は約16万5千人と、埼玉県下のJR線では大宮駅、浦和駅に次いで第三の規模を有しております。

また、川口市の平成28年10月における人口は59万5,093人となり、指定都市を除けば、日本で3番目に人口の多い市となっております。川口市における地方創生人口ビジョンにおきましても、川口市の人口は平成32年まで増加し、その後は微減となり、高齢化率も平均より低いと推計いたしております。このことからは、川口市は将来に渡り活力を維持し、さらには首都東京の経済を支えることが可能な都市（まち）であると自負しております。

しかしながら、JR川口駅の鉄道輸送能力は京浜東北線一線という極めて脆弱な状態にとどまっています。とりわけ、本線で頻発・増加傾向にある事故・故障等のトラブルによる列車の遅延・運休時には、ホームへの入場が制限され、おびただしい数の利用者が駅舎内はもとより、駅前広場やペデストリアンデッキにまであふれ、混乱を来たしております。

のことにより、川口市のJR京浜東北線を利用する勤労者は大きな負担を強いられており、歴史的にも江戸・東京との関わりの中で成長の源泉を得てきた川口市にあって、その発展を阻害しかねない重要な課題であるものと認識しております。

川口市においては、かねてよりこのような状況に至ることを危惧し、御社に対して、20年以上もの長きにわたり中距離電車の停車についての要望等を行うとともに、JR川口駅舎の改修・建替え時期に合わせての実現を図るべく、駅前の開発にあたってはJR川口駅西側に中距離電車の停車スペースとして公園・緑地帯の形で公共用地を確保するなど、万全の準備を行って参りました。

技術的にも湘南新宿ラインがJR川口駅の最も西側を走行・停車する場合は、一線の整備と切替え、地上駅ホームの建設を、鉄道輸送を妨げることなく施工することが可能であると御社からご同感いただいているところでございます。

単線でこれだけの大規模な輸送量を有する駅施設にあっては、まずは、その輸送力を増強し、代替性（リダンダンシー）を保持するなど、利用者の安全・安心を確保することが最優先の課題であると認識しております。

また、JR赤羽駅においてJR埼京線に乗り換えて池袋・新宿・渋谷方面に向かう本市の利用者も多く、JR埼京線の混雑が非常に激しい現状を踏まえると、JR川口駅にて湘南新宿ラインに乗換が可能となれば、路線利用の分散化によりJR埼京線の混雑が緩和されるとともに、乗換拠点駅であるJR赤羽駅の混雑緩和にも寄与するものと認

識しております。

さらには、東京都に隣接するJR川口駅に湘南新宿ラインが停車することになれば、京浜東北線による首都東京の交通結節点である東京・品川・羽田へのアクセスに加え、我が国新たな産業・文化を牽引する新宿や渋谷へのアクセスが向上し、埼玉県南の玄関口であるJR川口駅の拠点性・利便性が飛躍的に高まり、川口市及び埼玉県に留まらず、東京北部圏への集積力・集客力の向上にも資するものと想定いたしております。

このため、今後、駅や周辺地域の都市機能の飛躍的な向上を図るため、川口市が主導して、「鉄道沿線まちづくり研究会」を立ち上げ、御社をはじめとする交通事業者や地元関係者等が互いに有益となるよう、JR川口駅及び周辺地域のあり方を議論して参る予定です。川口市としましても、駅周辺の都市計画の見直しをはじめ、駅前広場・公共交通の再生や、民間活力を活用した再開発等を総合的に進め、JR川口駅の拠点性を一層高めて参る予定です。

御社におかれましては、湘南新宿ラインのJR川口駅停車について、何卒、格段の御配慮を賜りますよう、心よりよろしくお願ひ申し上げます。

平成28年11月10日

衆議院議員 新藤 義孝

川口市長 奥ノ木信夫

埼玉県議会議員 (川口市選出)	立石 泰弘
埼玉県議会議員 (川口市選出)	板橋 智之
埼玉県議会議員 (川口市選出)	永瀬 秀樹
自由民主党川口市議会議員	宇田川好秀
	松本 英彦
	稻川 和成
	吉田 英司
	若谷 正巳
	閑 裕通
	柳田 力
	前原 博孝
	杉本 佳代
	榎原 秀忠
	前田 亜希
	野口 宏明
	稻垣喜代久
	濱田 義彦
	古川 九一
	奥富 精一
	飯塚 孝行
	青山 聖子
	須藤 大貴